

現存12城名前	国宝・重要文化財	所在地	最初の築城年と築城者		天守の形
松本城	国宝5棟	長野県松本市	1594年	石川数正・康長	層塔型5重6階の大天守と3重4階の乾小天守等
	現存12天守の中では唯一平城の天守 漆黒で簡素な外観だが複合連結式の為見る角度によって異なる				
犬山城	国宝1棟	愛知県犬山市	1469年	織田広近	複合式望楼型3重4階地下2階の天守
	天守は最上階に実用的な外廻縁と高欄が付けられ、華頭窓も付けられているが、実際は窓ではなく装飾である				
彦根城	国宝2棟 重文5棟	滋賀県彦根市	1622年	井伊直継	複合式望楼型3重3階地下1階の天守
	文禄・慶長の役の際に朝鮮半島に造られた倭城にも見られる登り石垣や大名庭園も現存する				
姫路城	国宝8棟 重文74棟	兵庫県姫路市	1601年	赤松貞範	望楼型5重6階地下1階の大天守と3重の小天守等
	日本国内最大の現存天守である。白漆喰で塗られた白亜の外壁と屋根や破風の構成美 見る方向により異なった連立式				
松江城	国宝1棟	島根県松江市	1607年	堀尾吉晴	複合式望楼型5重6階
	昭和25年以来 平成27年7月の国宝になる 現存唯一内部に井戸がある 広さは現存の城3番目				
弘前城	重要文化財9棟	青森県弘前市	1611年	津軽為信・信枚	独立式層塔型3階の天守
	1617年落雷により天守を消失1810年に建て替え 現存の天守では最北 最東に位置する				
丸岡城	重要文化財1棟	福井県坂井市	1576年	柴田勝豊	独立式望楼型2重3階の天守
	最古の現存天守とする説があるが昭和23年の福井地震により倒壊元の古材を80%使用 昭和30年再建された				
備中松山城	重要文化財3棟	岡山県高梁市	1681年	秋葉重信	複合式層塔型2重2階の天守
	現存天守の中では最も規模が小さい 高さ11m 天守1階に囲炉裏が現存する山城の遺構はここだけ。				
丸亀城	重要文化財3棟	香川県丸亀市	1660年	生駒親正	独立式層塔型3重3階の天守
	天守は14.5mと3番目に低い 総高66mにある総石垣の頂上に建てられている				
松山城	重要文化財21棟	愛媛県松山市	1602年	加藤嘉明	層塔型3重3階地下1階の大天守と2重の小天守他
	平山城においては最も高い標高160mにある また一番新しい1852年日本式城郭建築の天守				
宇和島城	重要文化財1棟	愛媛県宇和島市	1601年	藤堂高虎	独立式層塔型3重3階の天守
	宇和島伊達家2代宗利が1666年頃に再建 現存天守で唯一城内に障子建具が残るが わからないことが多い				
高知城	重要文化財15棟	高知県高知市	1603年	山内一豊	独立式望楼型4重6階の天守
	火災で1747年に再建 現存の城の中でも唯一本丸の建造物がすべて残り 天守に接続した本丸御殿は高知城だけ。				

江戸時代以前からの天守が残る12城の主なデーター

土佐史談会 島崎